

大学・高専機能強化支援事業  
令和7年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和7年 11 月 18 日(火)	区分	支援1
選定年度	令和6年度	大学名	岐阜女子大学
設置等組織名	グリーンライフ創造学部建築デザイン創造学科 グリーンライフ創造学部食農デザイン学科 文化創造学部デジタルフロンティア学科	設置・定員増員年度	令和 10 年度
事業計画名	岐阜女子大学地域連携人材強化推進事業		

<p>1. 進捗状況の概要</p> <p>(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況 以下の点について課題が認められるが、その他の取組については、事業計画が概ね計画通りに進捗していることが確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマポリシーの具現策やカリキュラムの策定については、高校生や産業界とのニーズ調査の結果やコーディネーター等からの助言を受けながら、検討を進めている段階である。</li> <li>・教員の確保については他大学との競争にもなっており、大きな課題となっている。岐阜県内の企業や自治体等の連携機関からの支援を受けながら、地域課題に精通した現職教員の登用も検討している段階である。</li> <li>・大学(学士課程)の総収容定員充足率が未充足になっている状況については、各学科における学びの内容やキャリアパスが高校生や保護者、高校教員に十分に認知されていないことを主な要因として挙げている。現在、広報活動や高大連携の強化に加え、高校での多様化した学びに対応した入試への工夫や改善、自己研鑽型の奨学金制度の導入など、新学科の設置に先立って学生確保に向けた様々な策を講じている状況である。</li> </ul> <p>(2) 好事例や把握された事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が中心となって運営しているメタバースクラブの活動である下呂市との観光 DX に係る連携事業は、岐阜県の DX 推進補助金も活用しながら事業を年々拡大しており、今後、好事例になる取組として期待される。</li> </ul>
<p>2. 指摘事項(留意事項・参考意見)</p> <p>(参考意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の収容定員充足率のままでは、将来的に懸念が残る。大学独自に県内高校1・2年生(1~2万人)を対象とした調査を2回実施し、また企業に対しても調査を実施しニーズの把握等に努めているが、双方のニーズに相違が見られるなど、大学は調査結果を踏まえ新学科設置に向けた課題の解消を図り、学生の確保に努めてほしい。</li> <li>・現在の高校1年生が大学進学するタイミングでの開設となり、新学科における入学者選抜では基本的に数学を課す等変更点があるのであれば、進路選択に影響を与えることになる。より計画的な学生募集に努めてほしい。</li> <li>・大学全体として教育 DX に力を入れており、関心を持つ学生も多いのであれば、デジタルフロンティア学科でも情報の教員免許を取得できる仕組みを構築した方がよいのではないかと。</li> <li>・施設設備整備について、学内検討を踏まえ整備計画見直しの可能性があるとのことであったが、学生確保の面でも教育環境は重要であり、新学科設置までには完了できるよう整備を進める必要がある。</li> </ul>